

◇ 編集後記 ◇

○本年度は三年に一度、開催される同窓会全国大会と、第三十五回日蓮宗教学研究大会が催されたが、いずれも教職員諸先生方の積極的協力を待て円成することができた。研究活動はもとより、大会開催中に奉仕する諸先生の姿をみると、行学二道を祖訓とする祖山の学園であるとの想いを深くする。

○法主況下竹下日康学長並に総務況下岩間湛良学監におかれては、身延山教学の振興について格別のご理解を示され、学園の教職員に対して、(一)学園の在り方、(二)研究施設の充実整備、(三)教学振興の諸条件、等を綿密に計画を立案して将来に備えて欲しいと指示されている。その一つの具体的提言として、大学図書館の建設に意欲を示されていることである。

○本学に仏教文化研究所が新設発足して満三年、各種の学術大会参加、学内研究会、機関誌の発刊、身延山年表作成のための調査等に実績をあげてきましたが、明五十八年度の「棲神」(56号)は、共同研究による問題を設

定して(テーマ未定)問題を掘り下げてみたい。

○現在、学園では同窓諸賢による図書の献本運動が展開されているが、これは学園側の要望と、同窓生諸師の熱意とが見事に合致した成果であって、今後共、各位の御支援を願ってやみません。

○本号には上田・望月・町田・大森・若杉・高橋の五教授、中条・中里両講師による玉稿労作を賜わり、奥野講師には特に書評を依頼し、併せて日蓮教学大会の発表レジメ(寄稿者のみ)を掲載することができた。ご寄稿の諸先生方に厚く御礼を申し上げます。

○本誌を会員諸師の許にお届けすることの出来ることは編集子の大きなよろこびである。本誌五十五号の編集事務、及び仏教文化研究所の活動事務を担当された、中條暁秀・望月海英・奥野本洋各講師に謝意を表します。

○昭和五十七年度の望月仏教学術賞を上田本昌教授が受賞された。先年の林是幹教授に続いて二人目の荣誉である。上田先生の受賞にならって、本学より続々と受賞者が出るように願うものである。

(編集子 町田)